

三島イニシアティブ ～第1弾～

世界最高水準の医療の提供に資するデータ利活用推進基盤の構築

質の高い医療をお届けするため、デジタル社会における医療研究開発を推進するプラットフォーム構築に取り組みます。

日本におけるゲノム医療の実現 【個別化医療に向けた研究等の着実な推進】

● 三大バイオバンクを中心にバイオバンク連携を推進

- 既存試料の横断的利活用を推進する体制整備
- 試料の情報化（全ゲノム解析等）を推進し安定した利用を実現
- 前向きの詳細な臨床情報を持ち、包括的研究利用およびリコンタクト可能な日本人全ゲノム解析データの利活用を推進

● 大規模ゲノム解析基盤を整備

- 拠点スパコンの能力を最大化し運用を効率化するクラウド化
- プライバシー保護を実現する高セキュリティ解析環境
- バイオインフォマティクス研究者の育成

● AMED組織改編によるデータ利活用体制を構築

- 個人ゲノム・臨床情報を対象としたデータシェアリングを推進
- データ利用審査委員会の設置
- 産学官民が連携したデータ利活用を推進



国立研究開発法人
日本医療研究開発機構
理事長 三島良直

ゲノム・データ基盤PJを中核に、全プロジェクトで推進

6つの統合プロジェクト

①医薬品PJ

②医療機器・ヘルスケアPJ

③再生・細胞医療・遺伝子治療PJ

④ゲノム・データ基盤PJ

⑤疾患基礎研究PJ

⑥シーズ開発・研究基盤PJ

世界最高水準の医療の提供に資するデータ利活用推進基盤の構築



デジタル社会における医療研究開発を推進するプラットフォーム構築に取り組み、データの速やかな研究利用を実現します。

データ利用環境整備

利用者
民間企業を
含めた研究者



データ利用審査委員会
科学アドバイザーボード

CANNDs※

データ利活用サービスを提供

- ▶ 三大バイオバンクを含む多様なリソースから生成されたゲノム・臨床データを横断して利活用できる**One Stopサービス(CANNDs※)**

※Controlled shAring of geNome and cliNical Datasets

データ解析

バイオインフォマティクス
研究者の育成

大規模ゲノム解析基盤を整備

- ▶ 既存の計算資源の能力を最大化し運用を効率化するクラウド化の推進



情報化

バイオバンク連携を推進

- ▶ 試料の情報化（全ゲノム解析等）を推進し安定した利用と付加価値を実現

コントロール群	28,000症例
がん	16,000症例
難病	5,500症例

生体試料

研究参加者の同意

医療
機関

コホート

バイオバンク・
ジャパン

ナショナルセンター
バイオバンクネットワーク

東北メディカル・
メガバンク

三大バイオバンクと横断検索システム